

2025 年度 臨床教育学研究科 博士後期課程 入学試験

臨床教育学分野 専門科目

次に示す設問 A)~C)のうち、いずれか一つを選択し、その番号を記載したうえで、ご  
解答ください。

A) 以下の文章は今日まで多く語られている「青年期」のとらえ方です。しかし、今日の社会環境、生活状況の変化は、必ずしもこのようなとらえ方と一致しないという考え方もあります。

今日の若者が置かれている状況を考慮して、あなた自身が「今日の青年期」を定義するとしたらどのように定義しますか。

あなたの考える「今日の青年期」の定義を、年齢範囲、その特徴、どうしてそのように考えたのかという論点を含めて、1200字以内で論じてください。

**【これまで多く語られてきた青年期の特徴】**

青年期の一つの特徴として、心理的な内省的傾向（悪いのは自分だと考えてしまうような自己反省的な傾向）、自我意識の高まり（私は私で他の誰でもないという自分のとらえ方）から生まれる心の揺らぎがあります。この心の揺らぎを昔の人はうまく表現しています。詩人のゲーテはこの時代を「疾風怒濤の時代」とよんで、大きな波に揺れ動かされる青年を表現しました。心理学者である レヴィンは青年期の若者を、大人でもあり子どもでもある存在である「境界人」（マージナル＝マン）と呼びました。いったい自分は何者で、何を目指しているのかということに、自信を持ってないことが、青年期の不安ともつながるのです。

B) いわゆる「発達障害」の表記は文部科学省、厚生労働省、ならびに関係法令では「発達障害」とされているが、一部の当事者団体などからの要請を受け、「発達障がい」「発達障碍」「発達しょうがい」などと表記する例も多く見られる。また、DSM-5-TR\*、ICD-11\*\*の日本語訳でも、「神経発達障害／神経発達症」は、「神経発達症」とされた。一方、一部の当事者からは、これら、ひらがなや他の漢字への変更表記や〇〇症（例：限局性学習症）という日本語訳の名称に否定的・批判的な意見も多く寄せられている。

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）\*\*\*」における障害者、社会的障壁の観点から、「障害」の表記や「〇〇症」という名称に関するそれぞれ両者の立場から、合計 1,200 字以内で論じてください。

\*DSM-5-TR：米国精神医学会（APA）による精神疾患の分類と診断マニュアル 第 5 版 Text Revision（2022）

\*\*ICD-11：世界保健機関（World Health Organization, WHO）による国際疾病分類 第 11 版（2018）

\*\*\*障害者差別解消法 第二条

一 障害者 「身体障害、知的障害、精神障害（発達障害を含む。）その他の心身の機

能の障害（以下「障害」と総称する。）がある者であって、障害及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にあるものをいう」。

二 社会的障壁 「障害がある者にとって日常生活又は社会生活を営む上で障壁となるような社会における事物、制度、慣行、観念その他一切のものをいう。」

C) 自然災害であれ、職場で生じる問題であれ、“援助”の必要が様々な現場で生じる。

そうした際、援助する者と援助される側（被援助者）との「関係」のあり方、作り方

について、どのような課題が考えられ、そこであなたが重視するものは何か、任意の

場面を設定した上で、自身の領域（教育、心理、福祉、医療など）から 1,200 字以内

で論じてください。